

～ペットの防災準備、6 割以上の人がしていないと回答～

大正製薬『わんちゃん・ねこちゃん、もしものときの意識調査』を実施

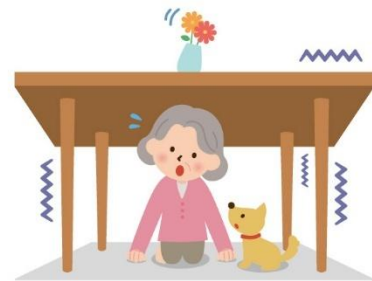
避難時に備えてのしつけ、わんちゃん「ケージに慣れさせる」、
ねこちゃん「決められた場所で排泄できる」

大正製薬は、わんちゃん・ねこちゃんを飼っている全国の男女 400 人を対象に、災害対策について聞く『もしものときの意識調査』を実施しました。

大切な家族の一員であるペット。ペットフードやペットケア、サプリメントの市場は年々伸長していますが、各地で災害が頻発する近年、飼い主さんがどのような点に気を付けているのかを探ってみました。

その結果、わんちゃん・ねこちゃんの防災準備をしていないという飼い主さんは 6 割以上を占め、さらにご自身の防災準備をしていないという飼い主さん (57.1%) については、9 割以上の方がわんちゃん・ねこちゃんの備えもしていないことが分かりました。

また、防災で一番気がかりなのは、わんちゃんの飼い主さんは「自宅での『在宅避難』ができないとき、どうするか」、ねこちゃんは「驚いてどこかへ逃げ出さないか」と考えていることが明らかになりました。



災害は突然やってきます。大切なわんちゃん・ねこちゃんを守るために、人もペットも日頃からの備えを見直しておきたいものです。

< 調査結果の概要 >

- ◆ ペットの防災準備、6 割以上の人がしていないと回答
- ◆ ご自身の防災準備をしていない飼い主さん (57.1%) は、9 割以上がわんちゃん・ねこちゃんの備えをしていない
- ◆ 対策していることは、1 位「ペットフードや水を備蓄」、2 位「キャリーバッグ、トイレ用品など防災グッズ一式を準備した」
- ◆ ねこちゃんの飼い主さんの 2 割以上が「常備薬・サプリメントを備蓄」
- ◆ 近隣の避難所のペットの受け入れに関するルールを知っている人は 4 人に 1 人
- ◆ 避難時に備えてのしつけは、わんちゃん「ケージに慣れさせる」、ねこちゃん「決められた場所で排泄できる」
- ◆ 一番気がかりなこと、わんちゃんは「自宅での『在宅避難』ができないときどうするか」、ねこちゃんは「驚いてどこかへ逃げ出さないか」
- ◆ 自宅で生活 (在宅避難) ができない場合はどうするか、「決めていない」が最多で 4 割以上、2 位「車中泊」、3 位「自宅に残して様子を見に行く」
- ◆ ペットの防災対策について地域の自治体や友人・近所の人と相談したことはない人が 7 割以上

<調査結果の内容>

◆ペットの防災準備、6割以上の人がしていないと回答

「わんちゃん・ねこちゃんのための防災の準備をしていますか」と尋ねたところ、「あまり準備していない」(32.3%)、「全く準備していない」(33.3%)を合わせると、6割以上(65.6%)の人が準備をしていないことが分かりました。

表 1:わんちゃん・ねこちゃんのための防災の準備をしていますか【N=400】

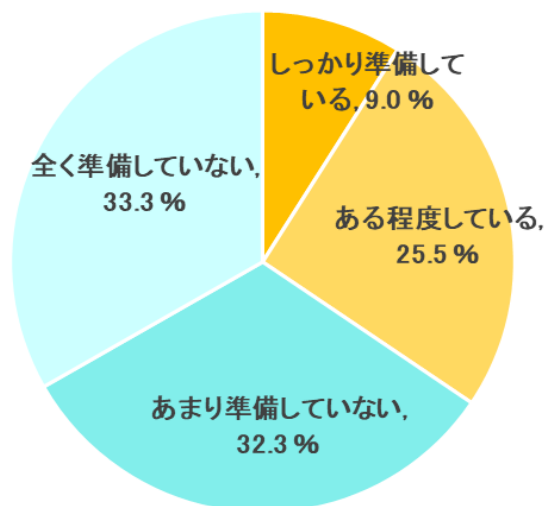
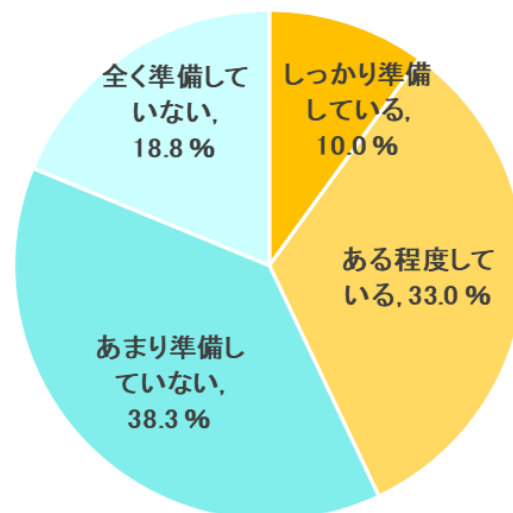


表 2:ご自身の防災の準備、備えはいかがですか【N=400】



◆ご自身の防災準備をしていない飼い主さん(57.1%)は、9割以上がわんちゃん・ねこちゃんの備えをしていない

「ご自身の防災の準備、備えはいかがですか」と尋ねたところ、「あまり準備していない」(38.3%)※、「全く準備していない」(18.8%)※を合わせた半数以上の飼い主さん(57.1%)が準備をしていないと回答。そのうち9割以上(91.7%)がわんちゃん・ねこちゃんの防災の備えもしていないことが明らかになりました。

※ 表 2 参照

表 3:ご自身の防災の準備、備えはいかがですか

飼い主さん自身【N=400】		わんちゃん・ねこちゃん【N=各200】	
しっかり準備している/ある程度している	43.0%	しっかり準備している/ある程度している	69.2%
		あまり準備していない/全く準備していない	30.8%
あまり準備していない/全く準備していない	57.1%	しっかり準備している/ある程度している	8.3%
		あまり準備していない/全く準備していない	91.7%

◆対策していることは、1位「ペットフードや水を備蓄」、2位「キャリーバッグ、トイレ用品など防災グッズ一式を準備した」

わんちゃん・ねこちゃんのための防災の準備を「しっかり準備している」(9.0%)※、「ある程度準備している」(25.5%)※と回答した人(34.5%)に、防災対策としてすでに行っていることを尋ねたところ、1位「ペットフードや水を備蓄している」(60.1%)、2位「キャリーバッグ、トイレ用品など防災グッズ一式を準備した」(50.7%)という回答になりました。

※ 表 1 参照

表 4: わんちゃん・ねこちゃんの防災対策としてあなた(飼い主さん)が
すでに行っていることを教えてください【複数回答 N=138】

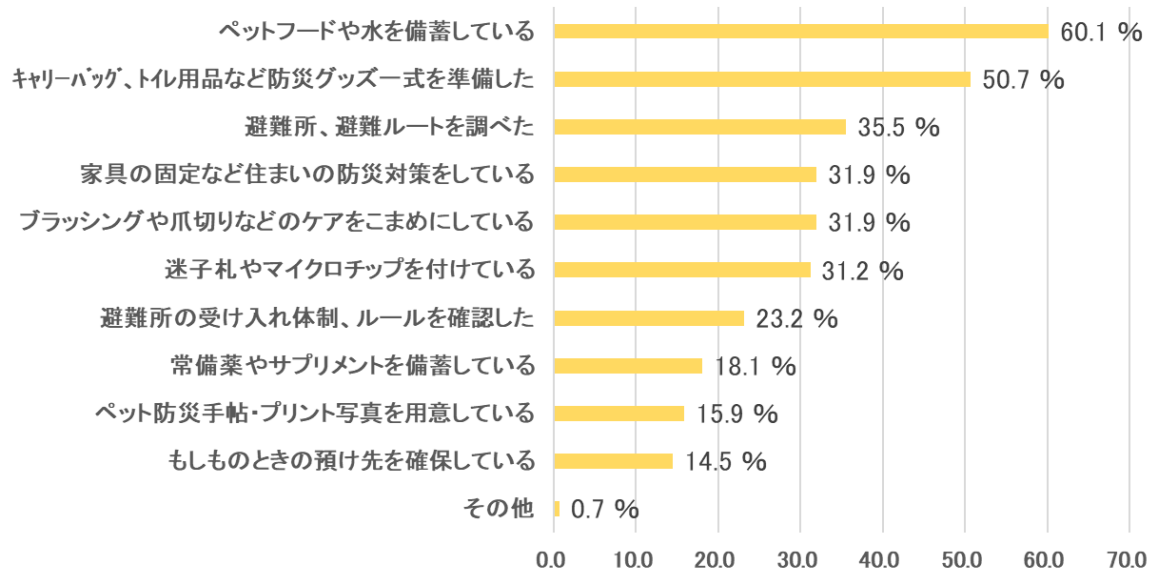


表 5: わんちゃん・ねこちゃんの防災対策としてあなた(飼い主さん)が
すでに行っていることを教えてください(わんちゃん/ねこちゃん)

わんちゃんの飼い主さん【N=80】			ねこちゃんの飼い主さん【N=58】		
順位	対策	割合 (%)	順位	対策	割合 (%)
1位	ペットフードや水を備蓄している	62.5%	1位	キャリーバッグ、トイレ用品など防災グッズ一式を準備した	58.6%
2位	キャリーバッグ、トイレ用品など防災グッズ一式を準備した	45.0%	2位	ペットフードや水を備蓄している	56.9%
3位	避難所、避難ルートを調べた	41.3%	3位	ブラッシングや爪切りなどのケアをこまめにしている	36.2%
4位	迷子札やマイクロチップを付けている	37.5%	4位	家具の固定など住まいの防災対策をしている	34.5%
5位	家具の固定など住まいの防災対策をしている	30.0%	5位	避難所、避難ルートを調べた	27.6%
6位	ブラッシングや爪切りなどのケアをこまめにしている	28.8%	6位	常備薬やサプリメントを備蓄している	24.1%
7位	避難所の受け入れ体制、ルールを確認した	26.3%	7位	迷子札やマイクロチップを付けている	22.4%
8位	ペット防災手帖・プリント写真を用意している	18.8%	8位	避難所の受け入れ体制、ルールを確認した	19.0%
9位	もしものときの預け先を確保している	16.3%	9位	ペット防災手帖・プリント写真を用意している	12.1%
10位	常備薬やサプリメントを備蓄している	13.8%	9位	もしものときの預け先を確保している	12.1%
-	その他	1.3%	-	その他	0.0%

◆ねこちゃんの飼い主さんの2割以上が「常備薬・サプリメントを備蓄」

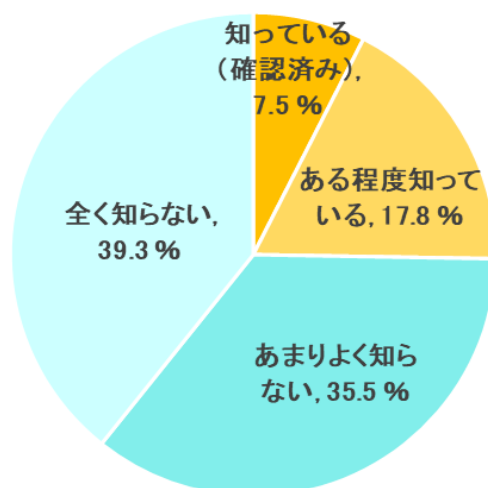
わんちゃんの飼い主さんについては、3位「避難所、避難ルートを調べた」(41.3%)※、4位「迷子札やマイクロチップを付けている」(37.5%)※と、具体的な対策に踏み込んでいる様子が見えます。一方ねこちゃんの飼い主さんは、「常備薬やサプリメントを備蓄している」と2割以上(24.1%)※の人が回答し、健康のケアに気を配る傾向が見られました。

※ 表 5 参照

◆近隣の避難所のペットの受け入れに関するルールを知っている人は4人に1人

「近隣の避難所のペットの受け入れに関するルールは知っていますか」と尋ねたところ、「知っている（確認済み）」（7.5%）と「ある程度知っている」（17.8%）を合わせても、ルールを知っている人は4人に1人とどまることが分かりました。

表 6:近隣の避難所のペットの受け入れに関するルールは知っていますか【N=400】



◆避難時に備えてのしつけは、わんちゃん「ケージに慣れさせる」、ねこちゃん「決められた場所で排泄できる」

「避難時に備えて、わんちゃん・ねこちゃんにしているしつけを教えてください」と尋ねたところ、わんちゃんは1位「ケージ・クレートに慣れさせる」（39.0%）、2位「おすわり、待てなど、基本的なしつけをしている」（34.5%）が上位を占めています。

一方、ねこちゃんの飼い主さんは1位「特になし」（45.5%）に続き、2位「決められた場所で排泄ができる」（33.0%）という結果になりました。

表 7:避難時等に備えて、わんちゃん・ねこちゃんにしているしつけを教えてください(わんちゃん/ねこちゃん)【複数回答】

	わんちゃんの飼い主さん【N=200】		ねこちゃんの飼い主さん【N=200】	
1位	ケージ・クレートに慣れさせる (中で落ち着いて過ごせる)	39.0%	特になし	45.5%
2位	「おすわり」「待て」など基本的なしつけをしている	34.5%	決められた場所で排泄ができる	33.0%
3位	特になし	29.0%	ケージ・クレートに慣れさせる (中で落ち着いて過ごせる)	24.0%
4位	決められた場所で排泄ができる	25.0%	不必要な鳴き声の抑制	9.5%
5位	飼い主以外の人に慣れさせる	21.0%	ハーネスに慣れさせる	8.5%
6位	見知らぬ場所に慣れさせる	19.5%	飼い主以外の人に慣れさせる	7.0%
6位	他のわんちゃん・ねこちゃんに慣れさせる	19.5%	他のわんちゃん・ねこちゃんに慣れさせる	7.0%
8位	不必要な鳴き声の抑制	14.0%	見知らぬ場所に慣れさせる	5.0%

◆一番気がかりなこと、わんちゃんは「自宅での『在宅避難』ができないときどうするか」、
ねこちゃんは「驚いてどこかへ逃げ出さないか」

「ペットの防災について一番気がかりなことは何ですか」と尋ねたところ、わんちゃんの飼い主さんは「避難所に行かず自宅で生活続ける“在宅避難”ができない場合どうするか」という回答が最も多く（23.5%）、ねこちゃんでは「驚いてどこかへ逃げ出さないか」（18.5%）が1位という結果になりました。

ストレスを心配する声も多く、「慣れない状況でのストレス」が全体で2位（17.3%）となっています。

表 8: ペットの防災について一番気がかりなことは何ですか 【N=400】

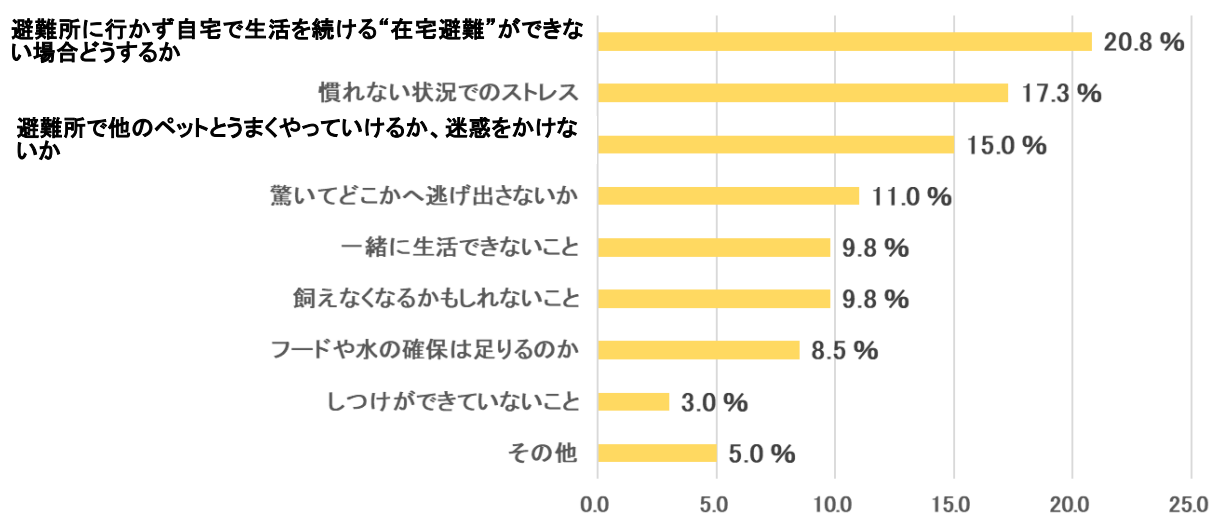


表 9: ペットの防災について一番気がかりなことは何ですか
(わんちゃん/ねこちゃん)

	わんちゃんの飼い主さん 【N=200】		ねこちゃんの飼い主さん 【N=200】	
1位	避難所に行かず自宅で生活続ける“在宅避難”ができない場合どうするか	23.5%	驚いてどこかへ逃げ出さないか	18.5%
2位	慣れない状況でのストレス	18.0%	避難所に行かず自宅で生活続ける“在宅避難”ができない場合どうするか	18.0%
3位	避難所で他のペットとうまくやっていけるか、迷惑をかけないか	17.5%	慣れない状況でのストレス	16.5%
4位	フードや水の確保は足りるのか	11.5%	避難所で他のペットとうまくやっていけるか、迷惑をかけないか	12.5%
5位	一緒に生活できないこと	10.0%	飼えなくなるかもしれないこと	10.5%
6位	飼えなくなるかもしれないこと	9.0%	一緒に生活できないこと	9.5%
7位	驚いてどこかへ逃げ出さないか	3.5%	フードや水の確保は足りるのか	5.5%
8位	しつけができていないこと	2.5%	しつけができていないこと	3.5%
-	その他	4.5%	その他	5.5%

◆自宅で生活（在宅避難）ができない場合はどうするか、「決めていない」が最多で4割以上、2位「車中泊」、3位「自宅に残して様子を見に行く」

「自宅で生活（在宅避難）ができない場合、避難中の飼育環境をどう考えていますか」と尋ねたところ、「決めていない」という回答が42.3%と最も多く4割以上を占めています。2位の「車中泊」は約3割（27.3%）が回答、3位は「自宅に残して、様子を見に行く」（10.3%）という結果になりました。

わんちゃんは「近隣の避難所へ同行避難」（11.5%）が3位で、一緒に避難したいという飼い主さんが多い一方、ねこちゃんは4位に「ペットホテルや施設に預ける」（8.0%）など、安心できる環境を確保してあげたいと考える飼い主さんが多いことが分かりました。

表 10: 自宅で生活(在宅避難)ができない場合、避難中の飼育環境をどう考えていますか【N=400】

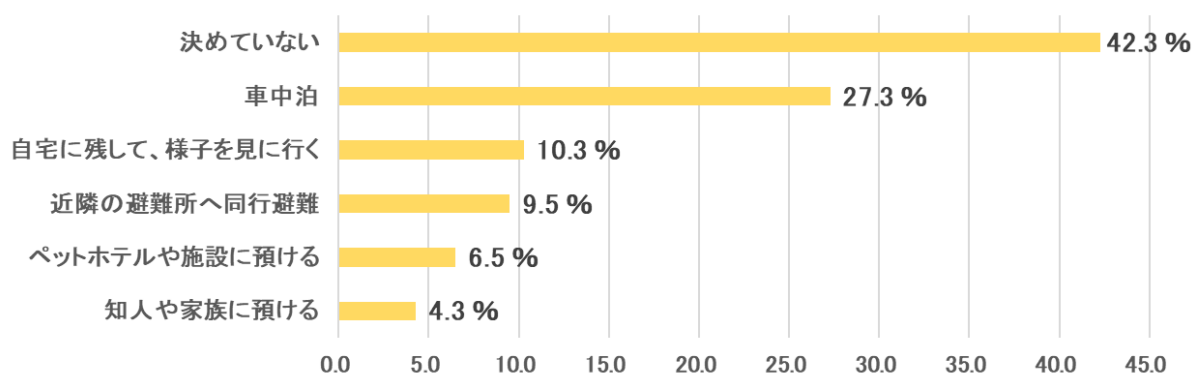


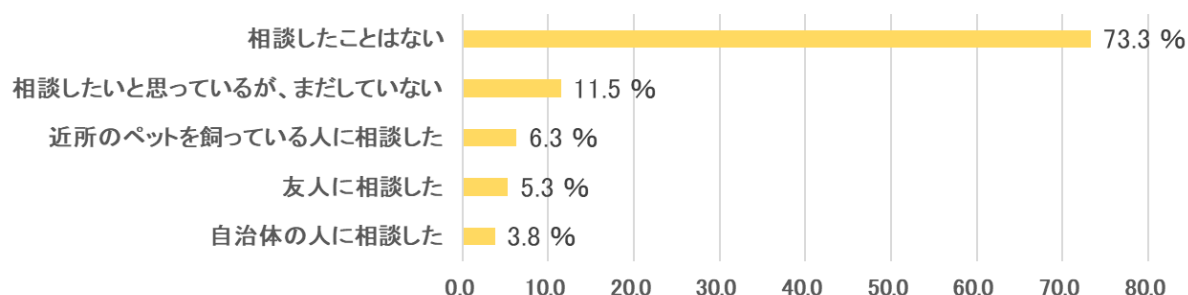
表 11: 自宅で生活(在宅避難)ができない場合、避難中の飼育環境をどう考えていますか(わんちゃん/ねこちゃん)

わんちゃんの飼い主さん【N=200】			ねこちゃんの飼い主さん【N=200】		
1位	決めていない	40.0%	1位	決めていない	44.5%
2位	車中泊	33.0%	2位	車中泊	21.5%
3位	近隣の避難所へ同行避難	11.5%	3位	自宅に残して、様子を見に行く	15.5%
4位	知人や家族に預ける	5.5%	4位	ペットホテルや施設に預ける	8.0%
5位	ペットホテルや施設に預ける	5.0%	5位	近隣の避難所へ同行避難	7.5%
5位	自宅に残して、様子を見に行く	5.0%	6位	知人や家族に預ける	3.0%

◆ペットの防災対策について地域の自治体や友人・近所の人と相談したことはない人が7割以上

「防災対策について、地域の自治体や友人・近所の人と相談したことはありますか」と尋ねたところ、「相談したことはない」という回答が73.3%と最も多く、7割以上を占めています。

表 12:防災対策について、地域の自治体や友人・近所の人と相談したことはあるか【N=400】



『わんちゃん・ねこちゃん、もしものときの意識調査』調査概要

調査地域：全国

調査期間：2025 年 12 月

調査方法：インターネットでのアンケート調査

調査対象：24～69 歳までの飼い主さん 400 名（男性 257 名、女性 143 名）

【年齢】わんちゃん：0～2 歳、3～6 歳、7～14 歳、15 歳以上
ねこちゃん：0～2 歳、3～6 歳、7～14 歳、15 歳以上
各 50 頭

有効回答：400 名

調査会社：株式会社クロス・マーケティング

※本調査の構成比は、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計しても 100 にならない場合があります



災害時は避難などで環境が大きく変わります。だからこそ、日ごろからおなかの健康維持はしておきたいものです。

「わんビオフェルミン S」「にゃんビオフェルミン S」は、ビフィズス菌と乳酸菌が生きたまま腸に届き、毎日のおなかの健康維持に役立ちます。プレーン味のふりかけタイプで、手軽にいつもの食事へ取り入れていただけます。

もしものときに備え、普段から継続して愛犬・愛猫のおなかの健康を維持しておきましょう。



製品名：わんビオフェルミン S
製品区分：犬用健康補助食品
希望小売価格：40g 3,300 円、
25g 2,090 円
(消費税込)
公式 HP: [わんビオフェルミン S](#)



製品名：にゃんビオフェルミン S
製品区分：猫用健康補助食品
希望小売価格：40g 3,300 円、
25g 2,090 円
(消費税込)
公式 HP: [にゃんビオフェルミン S](#)

リリースに関するお問い合わせ先
大正製薬株式会社 メディア推進部 梶田
TEL：03-6382-7304/ h-kajita@taisho.co.jp
株式会社ユナイトパブリックリレーションズ 宇藤・菊地
TEL：03-3504-8661/sugunite@unitepr.info